



**長 崎 県**  
中小企業家同友会

**DOYU**

ニュース  
**21**

E-mail jim@nagasaki.doyu.jp  
U R L http://www.nagasaki.doyu.jp

本部事務局 長崎市栄町1-20 大野ビル5F ☎(095)822-0680 FAX (095)824-4623

## 「私たち中小企業家が長崎を牽引していく!!」 ～遅しく拡大を続ける長崎同友会 会勢600名を達成しよう!～

### 第4回 地域振興のための意見交換会開催報告

政策委員長 町田 澄利



7月16日に長崎県勤労福祉会館にて、長崎県産業労働部産業政策課および商工金融課と「第4回地域振興のための意見交換会」を開催しました。今回は、同友会からは12名、産業労働部からは7名の参加がありました。

開会挨拶を同友会からは松尾代表、産業労働部からは産業政策課中野課長よりいただき、参加者紹介の後、産業政策課井内係長より問題提起をしていただきました。その内容は、長崎県では県民所得向上のためには第3次産業（サービス業）の振興が必要であると考えて支援をしているが、効果的な対策を考えていただきたいというものでした。

そこで、テーマを『県民所得向上のために』～第3次産業（サービス業）の振興に関して～として、グループディスカッションに入りました。その内容を下記に示します。

第1グループの発表では、

①公務員・大手地域企業・医療関係の接待が激減しているため、ますます低迷は続くであろう。その中で本県の際立った弱みとして接客の質が悪いという指摘があったことは、素直に受け入れるべきである。その接客の質を上げるために、顧客サービスに関する専門学校を立ち上げてはどうかというアイデアがあった。

②治療を要しない時期からの健康維持増進のための治療行為の前段とも呼べるようなレベルの支援をするための癒しの空間を作りたいが、法律の壁があって設立できない状態となっている。

③保険業も様々な法律の壁があるが、今回金融庁の審議会の中で、保険会社は全国の都市の中で、立地条件のよい場所に社屋を所有し営業しているが、その社屋の中で保育所・託児所を営業したら働く女性の大きなサポートなるという議論があり、認可される方向である。保険会社が保険以外の業務を営むことができるようになり、法律の壁が消費者の要望によって破られることになりそうである。

## 目次

第4回 地域振興のための意見交換会開催報告	1	9月例会案内	12
第45回中小企業家同友会全国協議会 定時総会 宮崎大会 参加報告	3	コラム「つながる」	13
例会報告	5	理事会報告	14
新入会員の皆さんの紹介	12	会員消息	14

④長崎空港を24時間営業にして国内だけではなく東アジアをターゲットにLCCの運行を考えてもいいのではないかなどの意見もあった。

第2グループの発表では、

①同友会のメンバーが長崎市の中小零細企業を代表し県の姿勢と政策に意見を言わせていただき、県の方も真摯にお聞きいただいた。

②補助金のばらまき政策もそろそろ見直す時期ではないか、そしてエコひいきな補助も必要ではないだろうか。限られた資金を広く浅く配布するより、集中的に効果が上がる方面の業種に集中的に投資したほうが、結果がついて来るのではないか等、いろいろ補助金の出し方に対し意見が述べられ、県の方も検討する余地があるような感想だった。

③観光は長崎の重要な産業ではあるが、花火を上げることばかりにお金を使うのではなく、インフラ整備にこそ資金を投入してほしい。長崎駅の再開発にしてもせつかく世界三大夜景になったのだから、長崎らしい景観にしてほしい（異国情緒が感じられる風景）。北海道のようにアジア、中国国内でコマーシャルをテレビで流すなど効果的なコマーシャルに使った方がいい等、国内向けだけでなく、広くアジアも取り込んだ方がいい等の意見も出た。

④民間なら当たり前の強い資源を生かし、より強くなる方策を具体的な例、例えば隠岐の島では行政が資金を出し、高価な殺菌装置及び冷却装置を購入し、都会で隠岐の岩垣ブームが起きたなど、甘やかさずに育てる補助金をお願いしたい。

⑤女性をもっと戦力にしたらどうだろうか。その為には保育園などの充実、産休後の会社への復帰のための施策（中小企業への職場復帰も含め）を考えてもらいたい。

全ては県民所得向上のため、同友会でいう、よい経営環境をつくり、よい会社を育て、よい経営者を育てるというところで締めくくった。

第3グループの発表では、

①観光に関して小浜町の現状では、旅館が30軒から13軒に減少している。理由としては団体旅行の減少があり、家族旅行が主となっている。また、大きなホテルが倒産している。顧客の変化に伴い自社の事業（都市ガス供給）も影響を受け、売上は減少している。厚生年金会館は老健施設となっている。

②行政は困っていることをやってやるのが必

(平成25年) 7月24日 水曜日

## 県中小企業振興条例

# 制定へ作業着手方針

### 15年2月 議会提案目指す

県は23日、県中小企業振興条例の制定に向けた作業に着手する方針を明らかにした。2015年2月の議会上程を目指す。同日の県議会条例制定検討協議会(友田吉泰座長)で山田伸裕産業労働部長が説明した。

同協議会は、議会提案による条例制定を進めるのが目的。中小企業振興条例の検討を進めるか判断するため昨年8月、県側に制定を求めた。同日の協議会で山田部長は「中小企業に役立つ条例にしていくため多くの意見を聞きたい」と述べ、今後、関連団体や



市町などとの意見交換を進める考えを示した。(山口恭祐)

### 日本生命財団が5団体に助成金

公益財団法人日本生命財団(大阪市、加藤貞男理事長)は23日、長崎市出身町の健康育成や高齢者による社会貢献活動に取り組みする5団体に助成金計198万円を贈った。

▽少年ソフトボールクラブ 夜木若菜(長崎市)▽ト

<2013年7月24日 長崎新聞7面>

要である。企業も勉強する、サービス業の切り口を変える、売りものは何か、など今まで通りのやり方ではダメである。

③施策を使わないのは、ア. 零細企業にとっては助成金等の書類を作るのが難しい。また書類が多い。助成金等が自分にあてはまるものかどうか分からない。道を作ってやる必要がある。イ. 県では施策の説明会が行われているが参加できていない。開催回数、場所、時間などを考えてもらいたい。ウ. 行政との意見交換の場がほしい。行政でこのような場をひらいてもらう、日頃のコミュニケーションが必要である。また、情報をどう吸い上げるかが重要である。

④産業振興財団や商工会議所、商工会等の役割が十分に発揮されていない。例として、商工会議所等には経営相談員がいると思うが、誰が経営相談員かも知らないのが現状である。情報発信が必要である。県は予算を出していると思われるので実態を把握してもらいたい。

⑤お客様のことを知る必要がある。例として、



佐世保バーガー等顧客が何を求めているかを知る必要がある。サービス業の接客がヘタであり、向上する必要がある。

このあと、質問事項に対する回答を産業労働部産業政策課からしていただきました。その中でサービス業の新分野進出や事業拡大を応援する

サービス業の企業支援について説明がありました。これは、緊急雇用創出事業臨時特例基金事業で8月30日までの募集となっています。

最後に、商工金融課上原課長と同友会政策委員長の町田が総評をして終了しました。

この意見交換会は、当初の目的は長崎県における中小企業振興基本条例制定に向けての足掛かりとして平成23年にスタートしましたが、この会を通じての目的は条例制定ではなく、現場の困りごとや申し入れ等が容易に伝えられると言う、県行政と民間事業所との意思疎通がいつでも個々にも円滑にできることを目的として実施しております。まだ参加されたことの無い会員の皆様方も是非参加していただき、忌憚の無いご意見を県に申し伝えていただければありがたいです。このことが事業所の生産性の向上、県の成長発展にも繋がると思っております。

## 第45回中小企業家同友会全国協議会 定時総会 宮崎大会 参加報告

7月11日(木)～12日(金)  
シーガイアコンベンションセンター

### 第4分科会

#### 業界の先駆的存在を目指して

企業変革支援プログラムを自社経営に生かす

大分同友会 代表理事 佐藤 貞一 氏

大村支部 支部長 大塚真一

2013年7月11日(木)～12日(金)第45回中小企業家同友会全国協議会 定時総会宮崎大会に参加してきました。全国より1000名近い参加者が集まり大会が開催されました。今回は長崎より18名大村支部より3名参加させていただきました。

今回私は第4分科会に参加しました。多くの分科会の中建設関係の企業を探してみると、唯一この分科会だけだったので登録しました。「企業変革支援プログラムを自社経営に生かす」というサブテーマで、報告者は大分同友会代表理事であります、法友建設株式会社専務取締役 佐藤貞一氏より報告いただきました。報告の内容としては厳しい建設業の中受注を少しずつ増やし、社員も増えていく中で定期的に企業変革支援プログラムを活用し幹部社員を巻き

込んで取り組むことで、経営課題を見つけ改善し、検証する。PDCAサイクルを回し社員と共に取り組んでいるという報告でした。会社存続は経営指針の成文化、経営指針はとても大事であること、経営理念を作成し実践していくことの大切さ、良い

会社はあたりまえのことがあたりまえにでき働きやすい会社を目指していくことが大事である。今回分科会に参加して「企業変革支援プログラム」を今後もっと理解することで会社に取り込んでいけるよう準備をしたいと感じています。自社においても経営計画書を作成してから3年目を迎えようとしています。少しずつですが試行錯誤しながらもっとよくなるよう努力し、常に良い会社・良い経営者・良い経営環境を



目指して取り組んでいこうと考えています。今回のサブテーマに掲げてある～企業づくり・地域づくり・同友会づくりを一体として地域の再生と復興を～とあるように企業が元気になれば地域も元気になる企業をもっと元気になれるよう同友会活動を活発にすることが企業も元気になり地域も元気になることだと今

回改めて再認識しました。今後ますます同友会活動を通して企業の発展を目指し地域に必要な企業とされるよう取り組んでいきたいと考えています。今回の宮崎大会短い時間でしたが大変勉強になりました。今後も多く大会に積極的に参加していきたいと考えています。

### 第13分科会

**仲間づくりの実践で、よい経営環境を目指す**  
ビジョンを掲げ、地域の隅々に同友会理念を拡げる

熊本同友会副代表理事 前仲間づくり（1000名）推進本部長 **布井 吉治 氏**

熊本同友会副代表理事 前仲間づくり委員長 **森川 俊秀 氏**

**諫早支部 副支部長 廣谷 慎也**

第45回定時総会（宮崎）に参加させていただき、その中で第13分科会させていただきました。第13分科会では、熊本同友会の森川氏、布井氏の2名の報告がありました。

森川氏は、入会5年目で仲間づくり委員長になられ、当時505名だった会員数を1年目で613名、2年目で713名まで増員されました。報告の中で一番印象的だったのは、「リーダーは確信を持って自ら動く事！」という言葉でした。森川氏の仲間づくりに本気で取り組む姿勢が周囲伝わり、組織がしっかり出来上がっていった事が、

会員増強の達成につながったのだなと感じました。

布井氏についても、2年間で約200名の増強を実現された森川氏から委員長を引き継がれ、プレッシャーがかかる中でも着実に会員増強を達成していかれた事は、前記の「リーダーとして自ら動く」という本気の姿勢を見事に実行された結果だと思えます。

本気の姿勢が伝わった時、人に何かを感じさせることができる。

これは、同友会の会員増強だけでなく、自社の経営に置き換えても同じ事が言えます。本気の姿勢を社員に伝える事で、組織が強くなり、より良い会社づくりにつながるのだと強く実感しました。

今回の宮崎総会では、同友会の仲間づくりについて勉強させていただきました。

仲間を増やす事は、組織を強くする。その為には、まずリーダーとしての本気の姿勢をいかにして伝えるかが重要である。

この総会での学びを今後の自分の取り組みに生かしていきたいと思えます。

### 第16分科会

**地域資源を活かし「新ビジネス」を創造する**  
強みの再発見とそれを活かす連携

宮崎大学 工学部 准教授 **西岡 賢祐 氏**

宮崎同友会 代表理事 **島原 俊英 氏**

**佐世保支部 副支部長 尾崎彰宣**

今回参加した分科会は、地域資源を活かし「新ビジネス」を創造するために、地域の強みの再発見をし、それを活かすためにどのように地域で連携していけばいいのかという趣旨で行われました。

宮崎大学と同友会会員との産学官連携による「ビームダウン式太陽集光装置」を見学し、その後宮崎大学准教授の西岡賢祐氏と宮崎同友会の代表理事の島原俊英氏（株日向中島鉄工所 代表取締役）による報告がなされました。まずは宮崎の強みを分析し、強みを活かし、そしてメリットがある者同士で連携を図って結果をだしたという内容でした。すべて地元企業と宮崎大学との取組み

ということで、エネルギーの地産地消にもつながったということです。

その後のディスカッションでまず感じたことは、自分らの地域の魅力、地域の資源というものに、意外と自分たちが知らないということです。このことが、地域資源が活用できていない最大のネックになっています。まずは、そういった面での意識の変化が必要ではないかと感じます。

結果として、我々のグループでは、地域資源の活用というよりも、地域に根差した活動をし地域と共生することにより、地域より逆にいろいろなことを教わり、会社に何らかの利益をもたらしてくれるということで、地域資源の最大の活用は、地域と共生することということで意見がまとまりました。

炎天下の中での見学に、空調が故障するというハプニングもあり、非常に苛酷な分科会でしたが、逆にグループ内での仲間意識が芽生え、本当に全国の仲間との人脈ができ、素晴らしい学びができたのではないかと思います。また来年も参加したいと思えます。

## 長崎支部 浦上地区会 例会報告

日 時	7月23日(火) 午後6時30分
会 場	ギャラリーヘキサ
テ ー マ	「楽しくなくっちゃ!!」を追い求めて…。
報 告 者	(株)クオリティ・ケア 代表取締役 山下 修一 会員



7月例会は老人介護、デイサービスを提供している(株)クオリティ・ケアの山下修一さんに『楽しくなくっちゃ!!』を追い求めて』というテーマで報告していただきました。今月からの試みとして例会の初めに握手タイムを設けるようにいたしました。皆さんが近くにいる方々と握手をしてもらうことで会場の雰囲気や和み、リラックス状態で報告へと移ることができたと思います。

クオリティ・ケアの経営理念の一つ「楽しくなくっちゃ」。山下さんは社員に対して単純で響くものを掲げたかったと言います。社員のみみんなが楽しくイキイキとした対応、接客で相手が何かを感じて、何らかの動きが出てくる。それが「感動を与えるということだ」と山下さんは言います。その「何か」が人それぞれ違っているから楽しく、追いかめたいと語られていました。接客の仕事に就いている私自身も強く共感を覚えた所でした。

今後の事業展開として、超高齢化社会に突入り市場は拡大する一方、山下さんは勝ち組にな

るための明確なプランを確立していました。①先行参入によるシェア獲得②介護保険外の収益確保③地域密着サービス展開を掲げており、このどれもが非常に緻密な計画で素晴らしかったと思います。そして、非常に印象的だったのが「固定観念をこわす」という言葉。心地よい空間造りのための施設らしくない施設づくり、送迎車のBGMは一般的には演歌などだがポップスをかけたりと山下さんのいい意味で型にはまらない人間性が出ているという感じでした。

報告の最後にきて社員教育で取り入れている「持ち味カード」の紹介もしていただきました。これはカードにキーワードが書かれてありこれは出来る、これは出来ないを分けて“自己分析”につなげるカードだそうです。自己分析により自分の長所を把握してもらい会社に活かして欲しいというモノでした。非常に的確な忠告ができるいいツールだと感じました。またテーマの「社員の良い所を見出せていますか？」に対し、「悪い所が目立ってしまうが良い所に気付いて朝礼などお互い言い合う」「社員をいなくてはならない存在に成長させるのが経営者の仕事」など活発な議論が展開されました。山下さんのアグレッシブな取り組みは浦上会員に大きな刺激と今後の経営に役立つものを与えた充実の例会でした。



(文責 平野圭司)

## 長崎支部 出島地区会 例会報告

日 時	7月24日(水) 午後6時
会 場	サンプリエール
テ ー マ	サラリーマンから後継者そして創業者に ～価値観の変化と経営者の責任感を実感～
報 告 者	藤村昆布海産(有) EC事業責任者 (株)カナル 代表取締役 藤村 隆 会員



出島地区会の例会は、今月から3ヶ月連続で「企業承継」をテーマとして編成することに決まっております。第1回目の7月は藤村昆布海産(有)のEC事業責任者、そして(株)カナルの代表取締役でもある藤村隆さんの報告です。

藤村さんは昭和52年生まれで、幼い頃からその当時父の経営する、長崎築町市場内の藤村昆布海産が生活の中心であり、昆布や椎茸の“におい”の中で育ちました。

長崎大学工学部大学院を卒業し、IT関連の企業に就職します。そこでは、大いに新技術を修得しますが、職場環境等に問題があり、故郷・長崎に帰ろうと決意します。

帰郷したものの何をしてよいやら…。

父である現社長からも「やりたい事が見つかるまでゆっくりしとればよか」と言われるだけでした。遊んでいる訳にも行かず、父の職場(藤村昆布海産)に行きました。懐かしい“におい”が彼を包みます。昔、父親からダッコされた時の“におい”でした。

店の状況をよく見ると、未だに帳簿は手計算、請求書も手書き等々、昔ながらのアナログ世界でした。

藤村さんはまず事務所にパソコンを導入し、事務所の改革に取り掛かります。皆がパソコンを使える様に指導します。藤村さんは少しずつ社員さんから信頼され始めます。それと同時に、藤村さ



んはWeb系システム開発の会社、(株)カナルを立ち上げます。この社名は藤村さんの生き方である「本気で事に当たれば何とかなる」の後ろの3文字を取りました。最近では大手企業もまだ使用できていないようなResponsive Web Designというシステム等も取り入れ、より高度なレベルまで仕上がっています。

昨年、この同友会に入会した事も大きな変化です。異業種の経営学に大変影響されています。

海産店の方もJA事業部との取引も順調に伸びており、今後の大きな成長分野になっています。時間はかかりましたが、店もカナルも伸びてきており、利益の出る体質になりました。

現在、家業と、カナルの異業種の経営者として奮闘中ですが、そんな彼を父である現社長は、時には意見の食い違い等もありますが、基本的には遠くから笑顔で見つめている、といった感じです。

今回は、長崎らしく、ほのぼのとした藤村流の「事業承継」を参加者全員で感じました。

「経営」という重い荷物を渡す方も、受け取る方も、お互いに尊重し合い、ゆっくり時間をかける事が肝要だと感じた例会でした。

(文責 岩崎 誠一)

## 大村支部 例会報告

日 時	7月18日(木) 午後7時
会 場	長崎インターナショナルホテル
テ ー マ	会社経営と同友会活動は不離一体 ～同友会活動から学ぶ私の実践～
報 告 者	尾崎陶器(株) 代表取締役 尾崎 彰宣 会員(佐世保支部)



佐世保支部副支部長の尾崎さんに報告いただきました。尾崎さんは、佐世保市でも有田町に近いところで創業明治十年より代々続いている尾崎陶器(株)の代表取締役にて平成15年に就任されて現在に至っています。

大学卒業後はオーナー企業の善し悪しを学びたい！と大手酒造メーカーに就職しサラリーマンとして5年間勤務。その後、親の会社を継ぐつもりだったため退社し、8年を経て代表に就任しました。しかし、都会から地元に戻って仕事をしている内に、大きなカルチャーショックを受けました。それは都会のメーカー会社社員と比べ、地元のビジネススタイルだったかも知れないが、働かない人が多いと言う事。親の会社でもあるが社員の教育がなされていない。陶器の売上もバブルなどの影響もあり業界全体が下り坂になっても体制は変わらない状況でした。そんなとき知り合いに誘われて同友会に参加しグループディスカッションを体験。その後平成18年に佐世保市の同友会に入会され、その時の発表者の意見を聞き感銘し勇気づけられました。

それまでの風潮として不景気なのは他人のせい、政治のせいとか、当たり前のことを当たり前の様にしない！等。例会に参加していると、経営のこと、人を使うこと等、同友会の会員に相談し



いろいろとアドバイスをもらい人脈もできました。例会で学んだことを会社へ持ち帰り活動し、又それを例会でのディスカッションにて話し、その繰り返しで少しずつ経営のことを学んでいきました。

社員にも企業理念を理解してもらい頑張れば給料などで自分にも良くなること等。その結果今までの経営を乗り越えることが出来ました。

今では有田町にアンテナショップを立ち上げ、少しずつではあるがいい結果につながっています。グループディスカッションでも「同友会で学んだことは？」とのテーマでは、聞く力、聞くことの大切さ、聞くことにより意見を出し合い学んでいけること。又、自分が発表することに際し、皆の意見をまとめる力などが付いていること等。このように同友会でいろいろな他業種の方の発表を聞き学んでディスカッションをする。いろいろな意見もあり、確実に一つ一つが大切な自分の力となっていることが解って来るのだろうと感じます。

(文責 松野健助)

### 折込サービス開始！

会員企業の皆様で制作されたチラシを広報誌と一緒に会員に配布するサービスを始めました。

毎月10日迄に事務局宛お届け下さい。発送は毎月15日～20日に行います。支部指定も出来ます。

A4チラシ1枚5円です。A3チラシは2枚分となります。ご利用お待ちしております。

## 広告募集

< 4 cm × 9 cm >

複数月 割引	6ヶ月	12,000 → 10,000
	4ヶ月	8,000 → 7,000
	3ヶ月	6,000 → 5,000

## 島原支部 例会報告

日 時	7月18日(木) 午後7時
会 場	ホテル シーサイド島原
テ ー マ	『お客様と地域に愛されるニッチトップを目指して』 ～お客様ニーズの大切さ～
報 告 者	(有) 壽物産 代表取締役社長 永吉 誠 会員



島原支部7月例会は壽物産 代表取締役社長永吉誠さんの報告でした。

主に敷料の製造・販売・運搬を事業として行っているのですが、御本人は後継者のため、御本人の後継に至るまでの経緯や生立ちについて報告をしていただきました。

中学を卒業して、今の会社とは全く関係のない仕事を他県に渡り数々経験されてゆく中で、バーテンダーという仕事を通して師匠というべき人と出会います。本当のお客様の真のニーズを読み取り、さらにそれを実践する面白さにのめり込みました。そして、それを生かし自らバーとは別の新規事業を立上げ、その事業も成功されたそうです。しかし、その事業の立上げのメンバー等の裏切りなどでその地を去ることになったそうです。

そんな中、実家のお父様より一通の手紙が届き(当時、手紙を書く様なお父様ではなかったそうです)違和感を感じ帰郷し、お父様の話を聞き決



算書を見るが形だけの黒字の決算書でした。色々な故郷での思いと子供の頃可愛がっていただいた取引先の方々の顔が浮かび自ら後継することを決意され、改革がスタートして行きます。

当然の如く経費の削減から始まり、商品の品質の改善を行ったそうです。

特に品質の改善を行う過程のお話を聞いている中で驚いたのが卸先の農家さんに商品の出来はどうか、自分は後継ぎで素人、まだ何も知らないのもっと良くするにはどうしたらいいかと直接何件も自ら訪問し、ヒヤリングをして行かれたそうです。はじめは黙っていた農家の方々が徐々に口を開き始め、さらに驚いたのは同業他社にも相談に出向かれ(当然ノウハウを簡単には教えてもらえなかったそうです)アドバイスをもらいました。

さらに自社で試行錯誤の中で品質向上に成功し業績も単年度黒字になり、今では将来のビジョンを社員さんと共に共有出来ている会社の状態を創り上げておられます。

経営者はお客様の真のニーズそして社員さんの真のニーズ(給与面・福利厚生等でない)を感じ取り、そしてそれを表現・実践しなければならないと強く感じました。

(文責 横田 健)

**ひと月2,000円で** **健康に自信!**

**甦命茶** 発売から30年 売れ続ける理由があります。

ふあんめいちゃ

動画をご覧ください

**0120-50-1388** **花粉症の方 お試しください!**

株式会社 みやび園 長崎市京泊1丁目1-42

太田会員 (長崎支部 出島地区会)

**V・ファーレン長崎** 

**V-VAREN NAGASAKI** **応援マット**

**ダスキン栄進** 電話 823-7633

瀧川 隆 会員 (長崎支部 出島地区会)

## 佐世保支部 例会報告

日 時	7月17日(水) 午後6時30分
会 場	佐世保市民会館 会議室
テ ー マ	木竹流 マーケティング活用術！
報 告 者	木竹会計事務所 所長 木竹 広賢 会員



7月例会報告は、木竹会計事務所所長の木竹広賢さんでした。売上げを作るための取り組みについてというテーマでお話をさせていただきました。

中小企業では、売上を作るといういわゆる営業という意識（お客様に商品・サービスを提案して販売・契約をするというイメージ）が強いのではないかと、ただ、木竹さんは、世間一般の営業が苦手な、所長として営業するための基礎を作ることに力を入れているのだそうです。

売上を作る活動を二つに分け、ひとつは、提案先のお客様を作る活動であるマーケティング、もうひとつは、お客様への商品サービス提案・契約である営業。この中のマーケティングに重点を置いているのだそうです。

マーケティングの考え方を活用することで、自分の勘と運に極力根拠を持つようにしてマーケティングの考え方を取り入れた場合の正解は何かを意識するようにしているとのことでした。

そして売上を伸ばすために必要なものは、①地域内のシェアアップ②顧客内のシェアアップということで、この二つの考え方を売上確保の前提としているということでした。

具体的にはお客様にとって競合と比較するという視点で仕事をする。目上の競合に対するスタンスと目下の競合に対するスタンスが大切で、目下の競合からシェアを確保することが確実だと思っているということでした。

目上の競合が真似できないポイントを前面に押し出すこと。所長自身の存在は、どこにも真似できません。この所長の存在ということは、すごく重要なことだと思えました。企業のトップセールスマンは、やはり所長（社長）ではないか



と思います。

そして、販促のしくみとしてAIDMAの法則（お客様に心理的な負担を少なく商品の購入・サービスの利用の段階までたどり着いてもらうための仕組みを用意する）という考え方を活用しているという報告がありました。

運と勘に頼ったどんぶり経営ではなく、運と勘に根拠を加えるためにマーケティングの考え方を活用して効率的な営業先を確保していくことが大切ではないか、中小企業では、社長が積極的に関わって行くべきだと思うと締めくくられました。

最後に今後の展望として、今後自分自身、お客様が安心して生きていけることを考えてサービス提供をしていきたいということでした。

大変、明るく、元気で、勢いの感じられる報告でした。この報告のあと、ひとり入会者も出たので、大変、いい例会ではなかったかと思えます。



(文責 今林京子)

## 北松浦支部 例会報告

日 時	7月18日(木) 午後7時
会 場	サンパーク吉井
テ ー マ	「我が社の経営方針」
報 告 者	(有)七種組 代表取締役 和田 清房 会員



「経営報告」と題して、経営計画書を発表されました。経営計画書としてはまだまだ足りない項目が多く、今後の経営戦略や課題・数値目標など明確に成文化・数値化することが良いと感じました。

しかし、会社の社是に込めた思いや、先代の社長から会社清算の話聞き、心機一転経営の継続を決め、会社の代表としてこの同友会へ入会され、経営者として勉強される心意気は見習わなければ



と思いました。また、テーブルディスカッションのテーマ「設立時の思い」について、「私の時は何の計画もなくただ言われるがままに仕事をしていた。」と、和田さんとの違いに情けなくなりました。

今後、経営指針づくり委員会の勉強会に参加され、経営計画発表会を行い社員さんと経営計画書を共有し、ますます社業を繁栄されることをお祈りします。

(文責 内海浩幸)

## 諫早支部 例会報告

日 時	7月23日(火) 午後7時
会 場	諫早観光ホテル 道具屋
テ ー マ	「挫折を経験して…ベンチャー奮闘記」
報 告 者	(株)ジービー 代表取締役 角田 慎一郎 会員

まず始めに、酒見支部長より報告者の紹介と「今回は佐賀県支部より3名とゲスト10名の方にご参加いただき、久々の5テーブルでの例会です。普通のセミナーと違う、これぞ同友会の報告だと感動を与えるものにしていただきたい！魂に届く報告を！」と激励を受けての報告となりました。

今月は角田慎一郎さんに「挫折を経験して…ベンチャー奮闘記」のテーマにて報告していただきました。安定した公務員職を投げ打って環境関連のベンチャーを立ち上げたが前途は多難だった…と長崎市役所に15年勤務され、市民課、教育委員会、生活福祉課、みどりの課、税務部資産税課とさまざまな部門を経験された後、ある方との出会いがあり平成18年11月に次の夢に向かうため退職されベンチャーを起業されました。現在まで角田さんの思いや計画とはうらはらに経営は厳しく、いくつもの挫折をされているお話には起業者の苦労がひしひしと伝わってきました。

現在の事業内容 (1. 環境関連商品の卸・販売・販促業務 2. 広告代理業務 3. 各種アド

バイス・コンサルタント業務) の中では環境関連のお話が主で関連資料を良く調べられ、説明の中に数字や具体例を交えわかりやすく伝えていただき、また自社で販売している商品を使うだけではなく、だれでも出来るエコ安全ドライブ等の説明もあり、私たちが身近で、すぐに出来る環境への取り組みの大切さを再認識しました。

同友会に対しては「自分自身が強く欲するほどに、吸収する気持ちに伝えてくれる。気づきを再認識できる貴重な場である」と同友会の仲間に、感謝・感謝の報告となりました。

テーブル別の発表では、辛口のコメントも多かったが総評として松田相談役より「知識で経営するのではなく知恵を持って経営することで角田さんも素晴らしい経営者となれる」という勇気の出ることばを受け、角田さん自身「40歳となる今年1年が勝負の年、多くの方に支えられていることに感謝してがんばります！」と決意を述べられました。今回のご報告ありがとうございました。

今回のグループディスカッションでは同友会ならではの厳しいご意見も多く聞くことができました。角田さんの今後の活躍に対する仲間の期待の現れだと感じました。謙虚に学び、お互いが辞書の1ページであり、何かしら参考となれるような「人」になりたいと感じた諫早支部例会でした。

(文責 川上清行)

## 青年経営者会 例会報告

日 時	7月19日(金) 午後7時
会 場	プライムステージ3F
テ ー マ	『長崎県中小企業家同友会、 青年経営者会の活動について』
報 告 者	長崎県同友会事務局 峰 圭太氏・岩永寛子氏・松下友美氏 青年経営者会 西村浩文氏 (元会長)・山口善也氏 (現会長)



青年経営者会7月例会は、今までとは趣向を変え、改めて同友会について勉強する会として第一部で長崎県同友会事務局より峰圭太氏、岩永寛子氏、松下友美氏、より報告していただきました。第二部では青年経営者会の元会長である西村浩文さん、現会長の山口善也さんにパネリストを務めていただき、パネルディスカッションを行いました。

まず第一部では、同友会事務局の峰圭太氏より事務局員の紹介から始めていただきました。ここでは、はじめに峰圭太氏からの提案で青年経営者会の会員が同友会についてどの程度の認識があるかという小テストを参加者全員に行いました。このような形で改めて同友会について考えてみると意外と知らない事が多いものだと思わせてもらったと思います。なかには満点に近いような優秀な方もいらっしゃいました。

その小テストの結果をふまえて峰圭太氏より同友会の歴史、活用方法、他県同友会の状況や交流、全国大会などについて報告いただきました。いまままで書面にてこの様な情報を目にする事はあっても、報告として聞かせていただく機会はありません



んでしたので、参加者全員とても勉強になったのではないかと思います。

第二部では、入会者数も増えてきたという事もあり、今年で30周年を迎える青年経営者会について参加者全員で討論を行いました。元会長の西村浩文さんよりこれまでの青年経営者会や会長を経験して感じたこと、今後の青年経営者会に望むことや現会員へのアドバイス等を報告いただきました。

また現会長の山口善也さんより現在の青年経営者会や親会との連携について、また今年の10月に行う三十周年記念事業について報告いただきました。特に三十周年記念事業は今期の一大イベントということもあり、会員の協力無しでは成し得ない事でもあるので、特に力をいれて取り組んでいます。

これらの内容について参加者全員がそれぞれの思いや考えを発表して、またその発表に対しての意見交換等も行われました。この様な討論を行うことで、ただ参加するだけではなく、積極的に発言をしていく事のよい機会になったと思います。

また今回は山口県同友会の下関支部より青松氏が参加されました。山口県でも青年経営者会設立の準備中という事で今回の例会が参考になれば幸いです。

新たな取り組みが行われた今回の例会でしたが、新鮮味があり、また改めて同友会や青年経営者会について学ぶ場となりましたので、今後の例会や青年経営者会会員の連帯感向上に役立てていければと思います。

(文責 山崎 晃)

## ホームページのバナー広告を 募集しています!

●お問い合わせ● 事務局まで  
(月500円です)



# 新入会員の皆さんです

(敬称略)

## < 7月入会 >

支 部 名	長崎 (浦上地区会)		
氏 名	いわなが つねよ 岩永 経世		
企 業 名	(株) I G マネジメント		
役 職 名	代表取締役		
企 業 住 所	〒850-0035 長崎市元船町14-10 橋本商会ビル4F		
T E L	095-826-8369	F A X	095-826-3225
業 種	生命保険・損害保険募集、代理業務		
企 業 P R	当社が要する I G 会計グループ (全 7 社) は、全国に先駆けて、経営計画をベースに「未来会計」に目を向けた M A S 監査サービスを提供しており、その中でも当社は経営コンサルティングを通して、企業の「安心・安全」に最大の視点を置き、最善の提案業務を行います。		
スポンサー	町田 貴代人		



支 部 名	長崎 (出島地区会)		
氏 名	いしばし あや 石橋 文		
企 業 名	石橋文税理士事務所		
役 職 名	所長		
企 業 住 所	〒850-0029 長崎市八百屋町2番地3 長崎税理士会館2階		
T E L	095-895-8854	F A X	095-895-8874
業 種	税理士業		
企 業 P R	記帳代行、会計システムの導入、税務相談、税務申告など社会の変化に応じて、適時に経営者の方のご相談に対応いたします。		
スポンサー	福井 義憲		



## 9 月例会案内

### ●長崎支部 浦上地区会

日 時 9月24日(火) 午後6時30分  
会 場 ギャラリーヘキサ  
テ - マ 「家業的経営からの脱皮を目指して」  
~これまで取り組んできたこと、  
これから取り組まなければいけないこと~

報 告 者 (有) 山崎総業 代表取締役  
炭火烧肉 牛若丸  
カラオケランド YOU  
山崎 功 会員

- ・七年間のサラリーマン経験を経て、実家の家業に入る。
- ・前職で学んだことを活かして改革に取り組み「家業的経営」から「企業経営」への転換を目指す。
- ・社長就任後、経営指針の必要性を実感、まず経営理念を作ってみるがなぜか納得できていない
- ・経営理念とは何なのか？経営理念を持たない会社の事業を承継した立場の者にとっての理念づくりとは？未だ答えが出ず現在に至っている。
- ・これからの同友会活動を通して答えを見つけていきたい。

### ●大村支部

日 時 9月19日(木) 午後6時30分  
会 場 長崎インターナショナルホテル  
テ - マ 経営指針  
報 告 者 経営指針づくり委員会

今、経営指針づくり委員会で検討していただいています。  
8月6日の合同委員会で内容の決定ができると思います。

### ●長崎支部 出島地区会

日 時 9月25日(水) 午後6時  
会 場 サンプリエール  
テ - マ 事業継承パネルディスカッション  
~事業承継のプロセスできていま  
すか？~

報 告 者 譲る側：金子寛道・品川廣紀・岩崎誠一  
承ける側：水野潤次朗・吉田大祐・  
林田雅博  
コーディネーター：大崎悠史

7月8日と続いた事業承継問題をまとめる形で、譲る側、承ける側から3名ずつ登場いただきパネルディスカッションを実施。パネルディスカッション後に通常のテーブルディスカッション実施。

### ●島原支部

日 時 9月19日(木) 午後6時30分  
会 場 シーサイド島原  
テ - マ 例会を考える会

11月の経営フォーラムがだんだんと近づいて来ました。今回初めて担当する事となった島原支部が一致団結し成功させることが出来るよう、そして支部会員がもっと参加したくなる例会にする為に、もう一度支部の体制を考え直し支部運営、例会の企画・準備・進め方などを会員みんなで話し合う会にしたいと思います。支部会員みんなの意見を取り入れたいので100%例会でお願いします。

## ●諫早支部

日 時 9月24日(火) 午後7時  
会 場 諫早観光ホテル 道具屋  
テ - マ 労使見解  
報 告 者 しんかん社会保険労務士事務所  
西山 浩之 会員

## ●北松浦支部

日 時 9月19日(木) 午後7時  
会 場 サンパーク吉井  
テ - マ 労使問題 PartII  
報 告 者 (株) F & M

## ●青年経営者会

日 時 9月17日(火)  
会 場 同友会事務局  
テ - マ 「地域活性化とものづくりへの歩み」  
報 告 者 五島灘酒造(株) 専務取締役  
田本 佳史 会員

青年経営者会30周年記念事業を上五島で開催するにあたり、五島の現状や経営環境を知る為に、上五島で事業をされている田本会員に今年2月長崎支部出島地区会にて報告していただいた内容をもとに報告していただきます。

## ●佐世保支部

日 時 9月18日(水) 午後7時  
会 場 佐世保市民会館  
テ - マ うちの後継者がうつになりまして。  
~1年半の休職から始まった「人を活かす経営」の実践 中小企業は何でもできる!~  
報 告 者 プライアント保険 専務取締役  
橋口 久 会員

9月の例会は保険代理業2代目経営者として活躍中の橋口会員による報告です。プライアント保険に入社前は、東京の日本語学校の事務長として海外を飛び回り、将来は自分の学校を持ちたいという大きな夢を抱いていた橋口会員。佐世保へ戻ってくるきっかけや、入社してからの大きな挫折。バラバラだった集団を強い組織へと成長させ、自社を業界の慣例から抜け出させる追い風となった経営計画書と経営計画発表会の活用。

そして知的障害のある方の雇用や外国人の雇用、さらには保険代理業では珍しい海外(中国)進出等々、その経営体験からは、得るものが多いと思います。

またその経営体験は同友会理念と常に絡み合っています。「人を活かす経営」を一言で言い表すことは難しいと思いますが、今回の報告を聞くことで「人を活かす経営」の入口が見えてくると思います。

日頃から「地域により近いところにいる中小企業家は、中小企業だからこそできる愛を感じられる経営をやるべきだ」と報告者は言います。

今回の経営体験からは温かさを感じ、自社経営のヒントや新たな挑戦への活力になると思いますので、オブザーバーを含めた、たくさんの方のお越しをお待ちしています。



## つながる

「SNS ちょっと休眠してみたら…」

同友会の仲間から、「フェイスブックしましょうよ」と誘われて始めた数ヶ月。「簡単ですから」と言われ、インターネットでフェイスブックを検索し、プロフィールを登録してやってみた。「やってみた」と言うと積極的に聞こえるかもしれないが、知り合いがいなか捜して、「友だち承認」をリクエストして少しずつ友だちを増やしていくのだが、「友だちの友だちは皆友だち」的に数珠繋ぎのように「友だち承認」リクエストがあったり、最初は興味もあり楽しいものだった。

いろんな方が自己責任で記事を投稿して読者が「いいね」を押したり、意見や感想を投稿したりとコミュニケーションもそれなりにとれていた。パソコンで見ていたので、毎朝、毎昼、毎夕、毎晩とパソコンの前に居る時は、必ずフェイスブックに繋いで誰か新しい投稿がないかを見るようになったし、時々自分でも意見を投稿したりもした。

友だちにそれほど広がりがない私の場合、ほぼ見る記事の傾向が固定化してしまっていて、「あの人の今日の投稿はまだかな」と思い、実際に会えば「今日はまだ投稿しないのー」と尋ねたり、感想を告げたりしていた。まわりの投稿の内容は、日記的なもの、読書感想、行事参加報告、商売の告知、おいしいもの自慢など多岐にわたる。

数ヶ月すぎると、写真とコメントなどが多いので物足りなさを感じてきた。

私の周りには、スマホで写真を撮り投稿する方が何人もいるし、スマホに投稿されたお知らせがきて、忙しそうにされている。何かあると投稿する習慣がついて皆さん忙しそうである。

飽き性の私は、この前フェイスブックをお休みすることにした。毎日、投稿される情報に飢えることなく、我慢しているわけでもなく、毎日が過ぎていく。いつでも復帰できるのだけれど、休んでから困ったということがないので、流行だったのかなと思うこの頃だ。

繋がった気がしていただけなのかもしれない。電話すれば声を聴くこともできるし、会うこともできる人が多い。遠方の旧友に愚痴れないのは残念だが……。

やはり、目的や問題意識を持って始めないと永続きしないものだ。

スマホで投稿する周りの会員の皆さんが少しカッコイイなあと思ったこともあり、携帯からスマホに変えてみようと思いついたこともある。「お客様は電話とメールしかされていないので、スマホにされるメリットはありませんよ。費用も2倍以上かかりますよ。変えない方がいいと思います。」とアドバイスされた。やはり、気分でない方がいいようだ。ガラ携が無くなる日まで使い続けてみよう。

(by フクカ)

# 理事会報告

2013年8月理事会 議事録 抜粋

2013年7月29日(月) プライムステージ 出席 19名 欠席 3名

※握手タイム

## 開会挨拶—金井副代表理事

暑い中ご参加いただきありがとうございます。本日の議事内容も五島支部設置委員会からの提案や増強デー、フォーラムなど多くなっていますが皆様のご協力で意見を整合しながらスムーズに進めて行きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

## 仲間づくりについて

1) 入会・退会の承認について—入会15名、退会1名を承認

	長崎	(浦上)	(出島)	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	合計
目標	235	125	110	65	80	60	120	40	600
期首	186	101	85	48	52	34	86	30	436
入会	11	8	3	0	1	2	1	0	15
復会	1	1	0	0	0	0	0	0	1
退会	1	0	1	0	0	1	3	0	5
今回受付	4	4	0	0	2	2	7	0	15
受付含	201	114	87	48	55	37	91	30	462

山領委員長 総括—(増強デーの結果を受けて)

当日は多数の参加があり、初回としては良かった。全体的な反省点としては各支部の競争意識を支部間で伝える事ができなかった。今後は状況報告等、各委員長と仕組みをつくっていききたい。結果としては当日申込書が12社、口頭確約が10社となり、22名と判断。年中増強を意識することは難しいのでこの増強デーは全県あげて取り組んでいきたい。600名に対してまだまだなので次回10月16日はフォーラムの前と言う事もあるため準備を進めて行きたい。

※入会申込書内、業種に関して詳細が不明または未記入があるので記入の徹底をお願いします。

## 報告・連絡事項

1) 7月 県本部・各委員会・各支部・各地区会等の活動状況について【事務局】

4月22日入局、経理担当松下が3ヵ月の試用期間を経て正式にパートとして継続勤務となりました。  
不慣れな点もございますがよろしくお願いいたします。

2) 例会について(更なる例会の充実をめざして)—尾崎例会委員長

3) インターンシップ推進協議会における県への要望書について

現在県から経営者協会に委託し、県の基金事業として活動中だが、県の基金事業が平成25年度で終了する事もあり、協会から県へ予算要求を行なう。そのための要望書を作成するが、その要望書内に同友会の名前(代表理事の名前含む)を記載したいとの依頼がありました。三役会としては問題ないのではないか、ということで理事会に報告し、結果、名前を記載する事になりました。

4) 中同協関係の件

①主要行事の紹介と参加促進

②中同協 第45回定時総会について(参加報告)

※参加者各自報告(詳細は報告書を広報誌に掲載しますのでご確認ください)

③第7回中小企業地球環境問題交流会(熊本)について

10月3日、開催されますが、長崎同友会としては五島支部設立総会の日程と重複したため、各支部の会員で行ける方を募る。できれば五島支部設立総会に参加をいただきたいが、状況を見ながら熊本への参加も促す。

④中同協専門員(女性部連絡会)募集について

諫早支部石橋会員に前年度に引き続き継続して専門員としてご活躍いただきます。

5) 事務局について

山田局長が病氣療養のため、派遣社員の採用も含めて、事務局としての案を三役会に出す。

6) その他

西村専務理事より

・県委員会議事録について

県各委員会の議事録に関しては前回の理事会で決議事項として決まった内容があります。議事録作成後は流れに従ってファイルライブラリにアップ、その後理事にその旨報告をよろしくお願いいたします。

## 協議・承認事項

1) 経営フォーラムに関して—横田実行委員長・敷島支部長

＜現在までの決定事項＞

・実行委員長—横田耕詞会員(有)ワイエムコンサル

・会場—HOTELシーサイド島原

・開催日—11月8日(金)

・目標—250名

・分科会数—3

・記念講演 講師—(株)DDR 安藤竜二氏

・テーマ 「今、私たちが変われば地域が変わる!!!」

～同友会理念を学び、経営者自らのブランド力を高めよう!～

・分科会内容並びに担当支部

①「社員共育」(大村支部)

②「企業連携」(諫早支部)

③「経営指針」(島原支部)

・分科会報告者

「社員共育」

福岡同友会 副代表理事 (株)コミプラ 時枝 寛氏

「企業連携」

九州経済産業局 総務企画部 総務課長 松田 一也氏

「経営指針」

福岡同友会 井上熱帯園(株) 井上 桂樹氏

・予算案と登録目標(オブザーバー含)

	長崎	(浦上)	(出島)	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	合計
登録目標	95	50	45	40	40	50	40	15	280

・組織図

・工程表

・タイムスケジュール

・来賓リスト(大村・諫早市長は除く)

＜今回提案事項＞—承認

・案内チラシデザイン

・横断幕デザイン

・グループ長研修の日程について

※グループ長研修に関して、昼食はグループ長研修前に各自済ませておくようお願いします。また、研修の時間は当日の11:45～12:45程度を予定しています。

※8月例会からキャラバンが始まりますので皆様よろしくお願ひいたします。

2) 五島支部設立総会について—三役会案を承認

(三役会案)

10月3日に開催予定。県の理事会と重複しているため、理事会を五島で開催。昼間に理事会、夕方から設立総会の予定。記念講演は福岡同友会代表理事(中山さん・田浦さん)による。

(理事会にて補足説明)

現在11名の発起人がいるが、総会までに最低「1人が1人」を達成し22名以上でスタートしたい。8月5日～6日、9月3日～4日と2回の現地協議会を開催し詳細を詰めて行く。また29日現在記念講演者は福岡同友会代表理事中山氏に内諾を得ている。10月中旬には青経30周年事業が上五島で開催されるため上五島への影響もあると思う。理事の皆様におかれましては「頼まれごとは試されごと」「返事はyesかはいしかない」という気持ちでぜひ参加をお願いします。

(継続検討)

※当日は五島で10月理事会が開催されるため交通費の半額補助を検討中

3) 長崎支部からの依頼事項(会員資格の明確化のお願い)—三役会案を承認

(三役会案)

原則支部役員会で推薦するかどうか判断し、理事会にて承認を得る形をとる(緊急の場合はメーリングなども考えられるが基本は支部役員会時に判断)。会員資格基準の明示に関しては規約もしくは活動の手引きにある通り。判断に迷う時は支部で相談し、理事会に承認を図る。

4) 企業連携推進協議会準備室からの提案について—保留

フォーラムの日程と近いため、参加動員が困難なのではないか?との意見から松尾代表と内山室長が連携をとり、畑野氏に日程変更の依頼をししてみる。

## 決議事項確認

1) 入会15名、退会1名を承認

2) 経営フォーラムに関して

・チラシデザイン案を承認

・横断幕デザイン案を承認

・グループ長研修の日程を承認

※グループ長研修についてはフォーラム当日の11月8日に開催。

時間は11時45分～12時45分を予定。分科会ごとに行う。グループ長は昼食を研修前にとっておくという事を、支部、地区会においてグループ長に伝える。

3) 五島支部設立総会について

委員会案を承認

4) 長崎支部からの依頼事項(会員資格の明確化のお願い)について

三役会案を承認

5) 企業連携推進協議会準備室からの提案について

提案は保留。

松尾代表より内山室長に、日程変更や動員目標、他団体からの動員等についてお話し頂き、日程については可能であれば変更して頂く。

## 会員消息

### 退会者(敬称略)

会社名	会員名	支部・地区会名
Relieve～リリーヴFP事業所	小川 あきこ	佐世保